

令和7年度看護栄養学部看護学科入学者選抜試験
【総合型選抜】

レポート試験問題

(試験時間 120 分)

注意事項

- ① 開始合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験番号、氏名を問題冊子、解答用紙、メモ用紙の所定の欄に記入してください。
- ③ 開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、直ちに申し出てください。
- ④ すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
なお、原稿用紙1マスに1字（数字を含む）とし、横書きで記入してください。
- ⑤ 試験時間中の退室はできません。
- ⑥ 問題冊子、解答用紙、メモ用紙は、試験終了後回収します。

受 験 番 号	氏 名

問題

別紙 1・2 の課題文等をふまえ、自らテーマを設定しなさい。設定したテーマに沿ってあなたの考えを 800 字以内で述べなさい。



図 1：日本の SDGs 達成状況と方向性：2023 年報告

(出典：Sustainable Development Report 2023. p290)



図 2：日本の SDGs 達成状況と方向性：2024 年報告

(出典：Sustainable Development Report 2024. p252)

*SDGs目標番号(日本語):

1 貧困をなくそう、2 飢饉をゼロに、3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、6 安全な水とトイレを世界中に、7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに、8 働きがいも経済成長も、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任つかう責任、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリシップで目標を達成しよう

*凡例の訳

Major Challenges: 深刻な課題が残る、Significant challenges: 顕著な課題が残る、Challenges remain: 課題が残る、SDGs achieved: SDGs 達成、Decreasing: 減少・後退、Stagnating: 停滞、Moderately improving: 緩やかに改善、On track or maintaining SDG achievement: 順調(目標達成見込み)/目標達成維持、Information unavailable: 情報入手不可

見えないことと目をつぶること

見えない体に変身したいなどと言うと、何を不謹慎な、と叱られるかもしれません。もちろん見えない人の苦労や苦しみを軽んじるつもりはありません。

でも見える人と見えない人が、お互いにきちんと好奇の目を向け合うことは、自分の盲目さを発見することにもつながります。美学的な関心から視覚障害者について研究するとは、まさにそのような「好奇の目」を向けることです。後に述べるように、そうした視点は障害者福祉のあり方にも一石を投じるものであると信じています。

ではいったい、どのようにして「見えない体」に変身すればよいのか。そんなの簡単だよ、視覚を遮ればいい、目をつぶったりアイマスクをつければいいじゃないか、と思われるかもしれません。

いいえ、視覚を遮れば見えない人の体を体験できる、というのは大きな誤解です。それは単なる引き算ではありません。見えないことと目をつぶることとは全く違うのです。

見える人が目をつぶることと、そもそも見えないことはどう違うのか。見える人が目をつぶるのは、単なる視覚情報の遮断です。つまり引き算。そこで感じられるのは欠如です。しかし私がとらえたいのは、「見えている状態を基準として、そこから視覚情報を引いた状態」ではありません。視覚抜きで成立している体そのものに変身したいのです。そのような条件が生み出す体の特徴、見えてくる世界のあり方、その意味を実感したいのです。

それはいわば、四本脚の椅子と三本脚の椅子の違いのようなものです。もともと脚が四本ある椅子から一本取ってしまったら、その椅子は傾いてしまいます。壊れた、不完全な椅子です。でも、そもそも三本の脚で立っている椅子もある。脚の配置を変えれば、三本でも立てるのです。

脚の配置によって生まれる、四本のバランスと三本のバランス。見えない人は、耳の働かせ方、足腰の能力、はたまた言葉の定義などが、見える人とはちょっとずつ違います。ちょっとずつ使い方を変えることで、視覚なしでも立てるバランスを見つけているのです。

変身するとは、そうした視覚抜きのバランスで世界を感じてみるということです。脚が一本ないという「欠如」ではなく、三本が作る「全体」を感じるということです。

異なるバランスで感じると、世界は全く違って見えてきます。つまり、同じ世界でも見え方、すなわち「意味」が違ってくるのです。

(中略)

「明日の午後の降水確率は六〇パーセント」という「情報」と「意味」

とは言ったものの、そもそも「意味」とは何でしょうか。ずいぶん原理的な問いですが、本書のスタンスに関わる場所なので、紙面を割いて確認しておきたいと思います。本書で言う「意味」のニュアンスは、「情報」と対置すると明らかになります。

す。

「情報」は、客観的でニュートラルなものです。たとえば、「明日の午後の降水確率は六〇パーセントである」。これはふつう情報として受け止められます。友人の「明日の午後の降水確率は六〇パーセントだよ」という発言に対して「ありがとう」と言ったら、それは「情報をありがとう」「大事な情報を教えてくれてありがとう」という意味です。

それに対して、たとえば恋人の言う「あなたは石頭だ」を情報として受けとってしまったら、きっと次にくるのは別れの言葉でしょう。これはむしろ感情の吐露です。ここであなたがすべきなのは、メモをとることではなく、恋人の感情に対して、なだめるなり反論するなり、アクションを起こすことです。

報告者が自分の主観を述べたものは情報ではありません。情報とは、報告者の主観を排した、客観的な内容のことを指します(天気予報だって厳密には予報士の「判断」なので、そもそも本当に客観的な情報など存在するのか、という疑問にはここでは立ち入りません)。

しかし、この「明日の午後の降水確率は六〇パーセントである」という「情報」は、受け手次第で、無数の「意味」を生み出します。明日運動会を控えた小学生なら、この情報は「運動会が延期になるかもしれない」ということを意味するでしょうし、傘屋なら「明日は儲かるな」、農家なら「朝の水やりは控えめにしよう」となるでしょう。あるいは災難つづきの一日を過ごした人なら、ここに何かの暗示を読み込むかもしれない。

つまり「意味」とは、「情報」が具体的な文脈に置かれた時に生まれるものなのです。受け手によって、どのような状況に置かれるかによって、情報は全く異なる意味を生み出します。本川先生のサイズの生物学を例にとるなら、「時計の時間」は「情報」、「個々の生物にとっての時間感覚」は「意味」に対応していると言えるでしょう。

出典：伊藤亜紗. 目の見えない人は世界をどう見ているのか. 光文社新書, 2015, p29-p33.